

平成20年6月20日
東海財務局

管内信用金庫の平成19年度決算の概要について

管内信用金庫の平成19年度決算の概要は、以下のとおり。

1. コア業務純益が908億円となり、19年3月期比189億円減少(17.23%)した。
主な要因としては、
預金利息の増加が貸出金利息の増加を上回ったため資金利益が123億円減少
投資信託の販売が株式市況の低迷等により減少したことなどにより、役務取引等利益が26億円減少
一部の金庫において共同事務センター移行のためのシステム変更、新本店建設による費用等の増加などがみられたことから、経費が37億円増加したこと等が考えられる。
2. 当期純利益が282億円となり、19年3月期比314億円減少(52.67%)した。
主な要因としては、
株式市況の低迷により、株式等の減損処理や売却損が増加したことにより、株式等関係損益が115億円減少
中小企業の倒産等から不良債権処分損が72億円増加したこと等が考えられる。
3. 金融再生法開示債権比率が6.39%と19年3月期比0.08ポイント低下した。
4. 自己資本比率が13.96%と19年3月期比0.07ポイント低下した。

管内信用金庫の平成 19 年度決算のポイントは、以下のとおり。

資金利益、役務取引等利益がともに減少したことから、コア業務純益は、二桁の減益となった。(コア業務純益は2期連続減益)

資料3, 4, 5, 6 ページ

中小企業の倒産や、原油高、原材料高等により一部の中小企業で財務内容が悪化していることなどから、不良債権処分損が増加した。

一方で、不良債権のオフバランス化を進めたことなどから、不良債権額、不良債権比率ともに低下した。(不良債権比率は、5期連続低下)

資料3, 7 ページ

サブプライムローン問題を契機とした株式市況の低迷等により、株式等について売却損の計上、減損処理を行った。また、その他有価証券の評価損益は評価損に転じた。

なお、不良債権処分損及び有価証券関係損失は、コア業務純益での処理が可能な範囲である。

資料8, 9, 10 ページ

自己資本比率は、今期低下に転じたが、健全性の基準を満たした財務内容となっている。

資料11 ページ

預金、貸出金の状況を昨年と比較すると、平均残高でそれぞれ 2.4%、1.0% 増加、利回りでそれぞれ 0.16 ポイント、0.10 ポイント上昇した。その結果、預貸金利鞘は 19 年 3 月期比 0.05 ポイント低下し、管内の金融環境は、引き続き低金利貸出による激しい競争が続いているものとみられる。(預貸金利鞘は3期連続低下)また、不良債権処分損が増加したことから、与信費用を差し引いた実質的な預貸金利鞘は2期連続して低下した。

資料12, 13, 14 ページ

【お問合せ先】

財務省 東海財務局 金融監督第二課

TEL:(052)951-1774(ダイヤルイン)



管内信用金庫の平成19年度決算の概要 (速報集計値)

平成20年6月20日
東海財務局



はじめに

東海財務局管内に本店を置く信用金庫(以下の39金庫)の平成19年度決算について、取りまとめを行ったのでこれを公表する。

管内の信用金庫

【愛知県内】

愛知信用金庫(名古屋市)、豊橋信用金庫(豊橋市)、岡崎信用金庫(岡崎市)、いちい信用金庫(一宮市)、瀬戸信用金庫(瀬戸市)、半田信用金庫(半田市)、知多信用金庫(半田市)、豊川信用金庫(豊川市)、豊田信用金庫(豊田市)、碧海信用金庫(安城市)、西尾信用金庫(西尾市)、蒲郡信用金庫(蒲郡市)、尾西信用金庫(一宮市)、中日信用金庫(名古屋市)、東春信用金庫(小牧市)

【岐阜県内】

岐阜信用金庫(岐阜市)、大垣信用金庫(大垣市)、高山信用金庫(高山市)、東濃信用金庫(多治見市)、関信用金庫(関市)、八幡信用金庫(郡上市)、西濃信用金庫(揖斐郡大野町)

【静岡県内】

静岡信用金庫(静岡市)、静岡信用金庫(静岡市)、浜松信用金庫(浜松市)、沼津信用金庫(沼津市)、三島信用金庫(三島市)、富士宮信用金庫(富士宮市)、島田信用金庫(島田市)、磐田信用金庫(磐田市)、焼津信用金庫(焼津市)、掛川信用金庫(掛川市)、富士信用金庫(富士市)、遠州信用金庫(浜松市)

【三重県内】

津信用金庫(津市)、北伊勢上野信用金庫(四日市市)、三重信用金庫(松阪市)、桑名信用金庫(桑名市)、紀北信用金庫(尾鷲市)

各計数は、暫定の集計値に基づくものであり、今後変動があり得る。
各計数は、当局調査に基づく計数(単体ベース)を集計したものである。

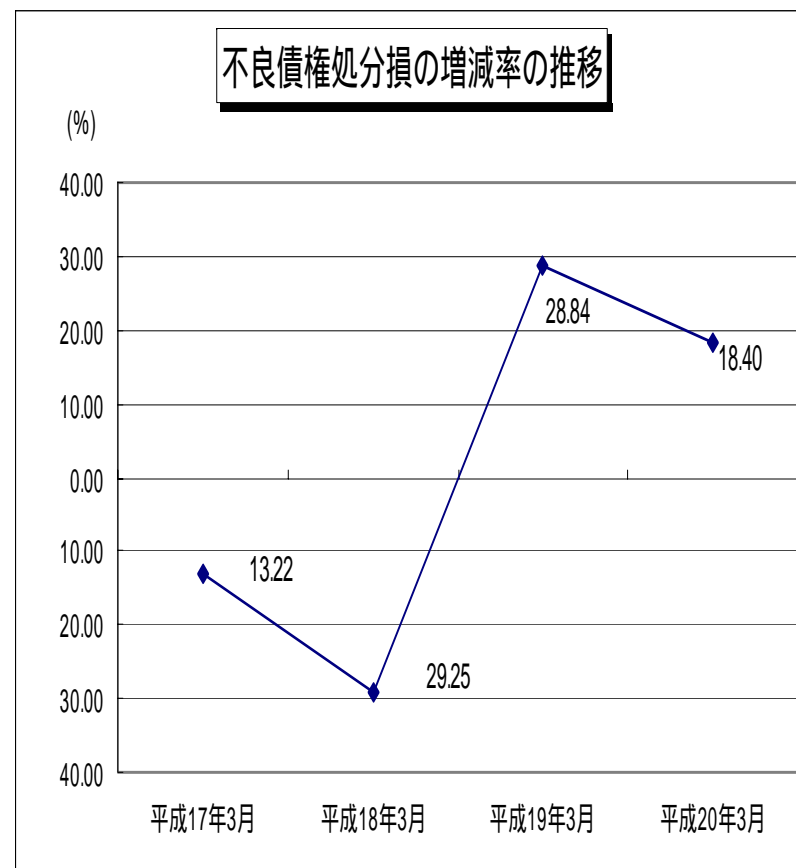
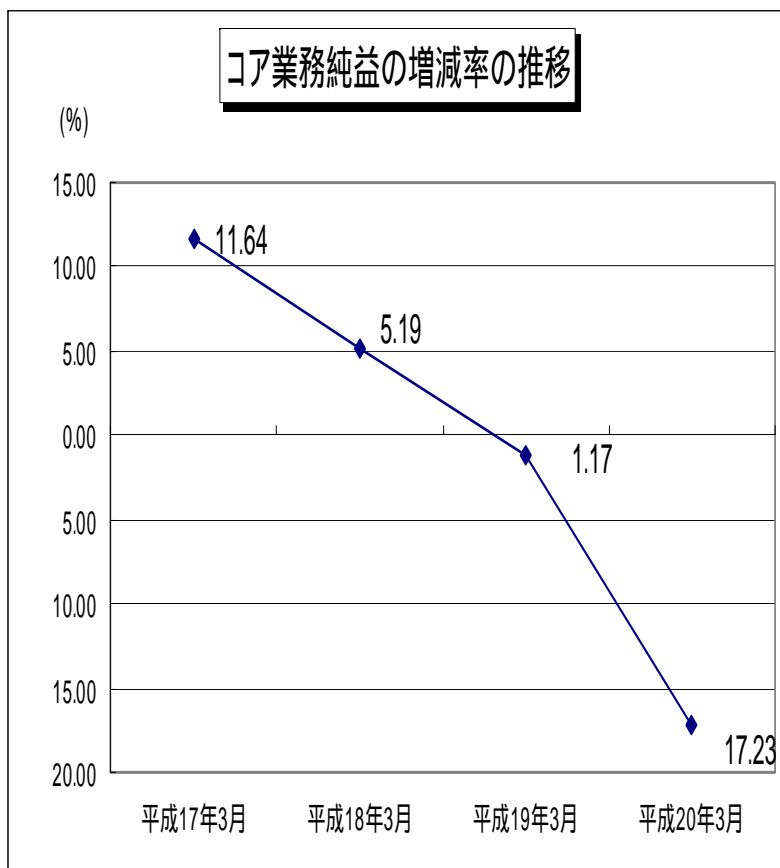


損益の状況

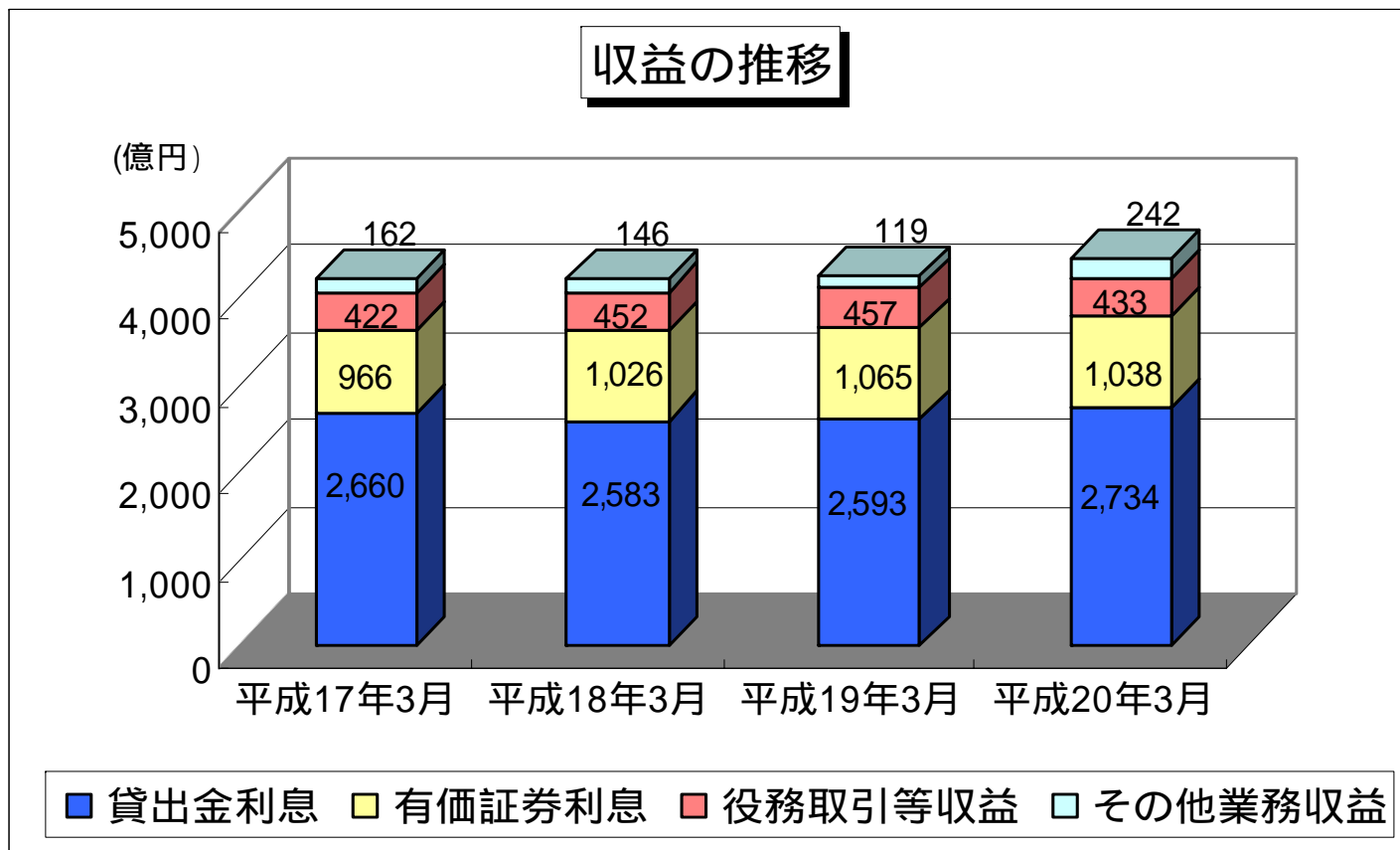
(単位:億円)

	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	前期比
コア業務純益	1,055	1,110	1,097	908	189
資金利益	3,589	3,599	3,595	3,472	123
役務取引等利益	216	236	239	213	26
国債等債券関係損益	40	20	42	34	8
不良債権処分損()	424	300	386	458	72
当期純利益	493	648	596	282	314

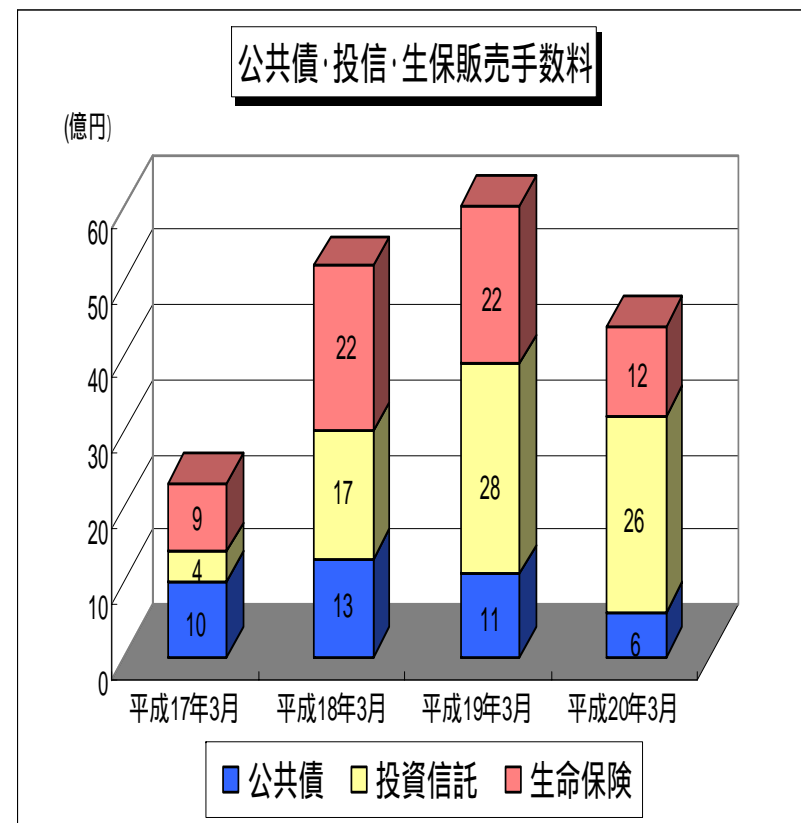
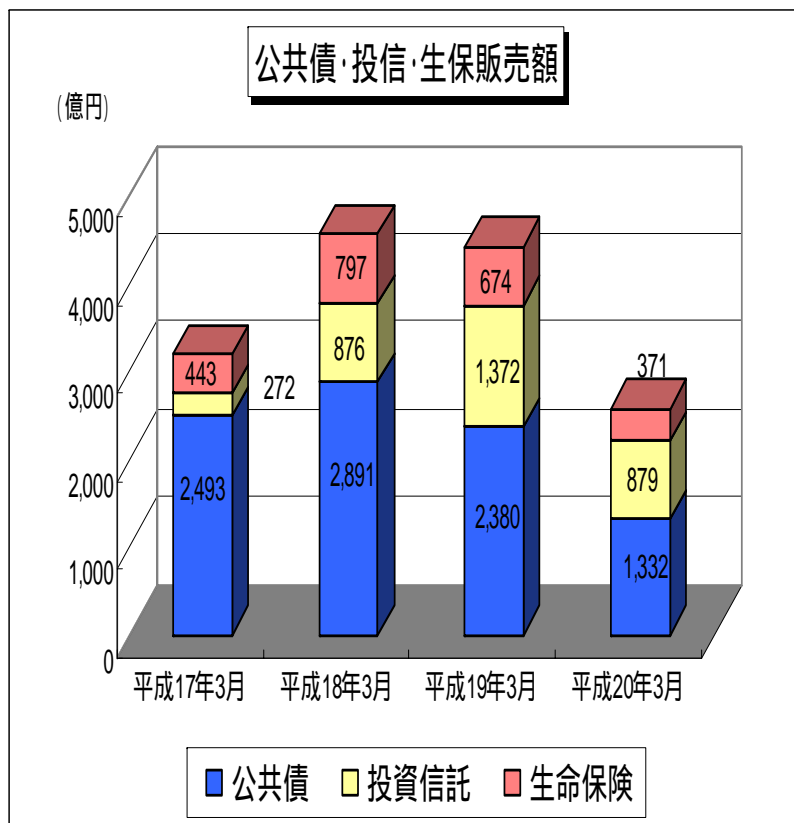
コア業務純益、不良債権処分損の 増減率の推移



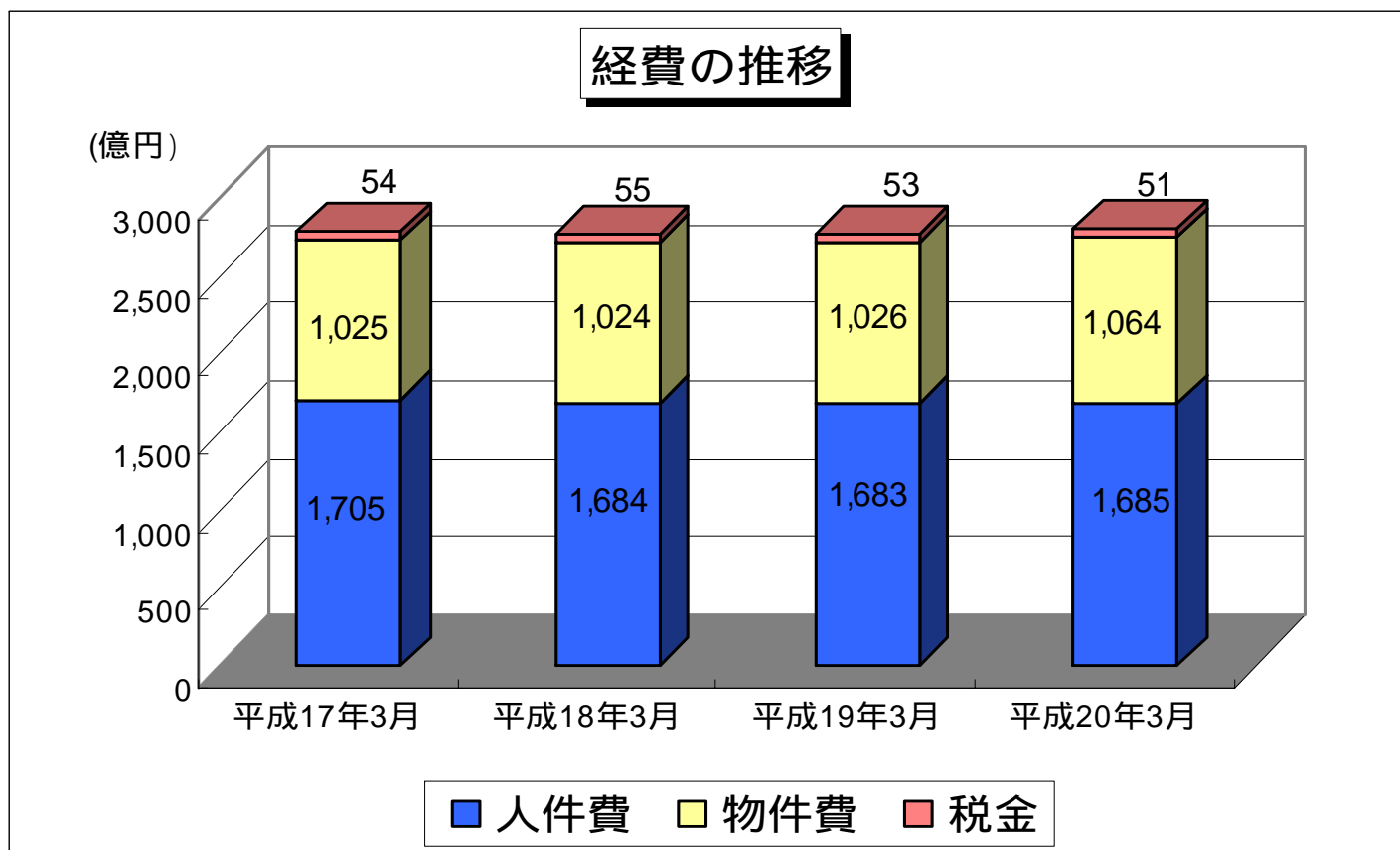
収益の状況



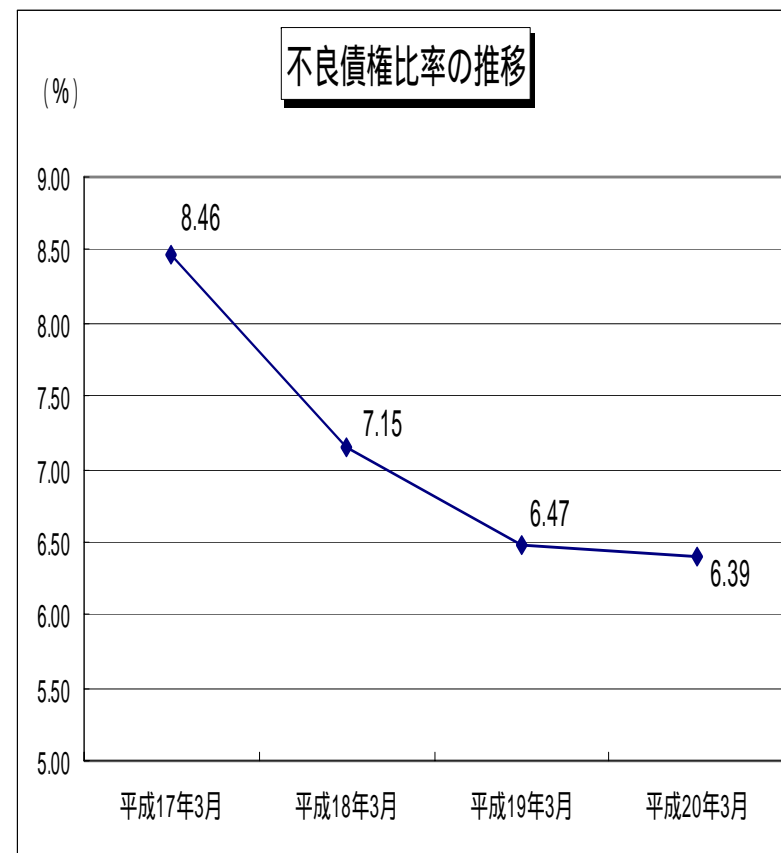
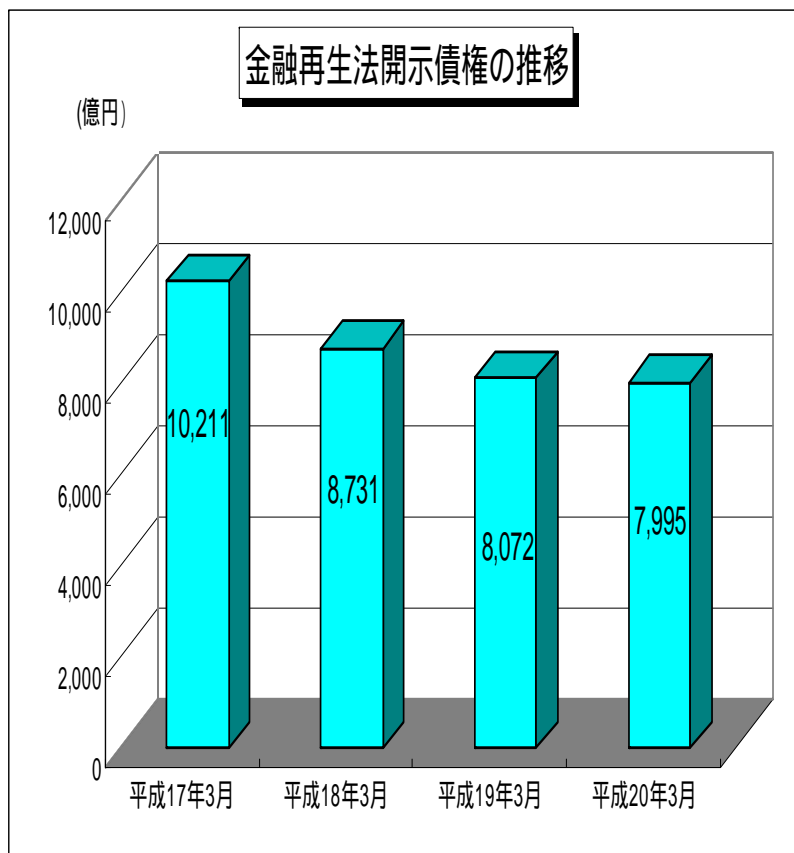
預り資産の状況



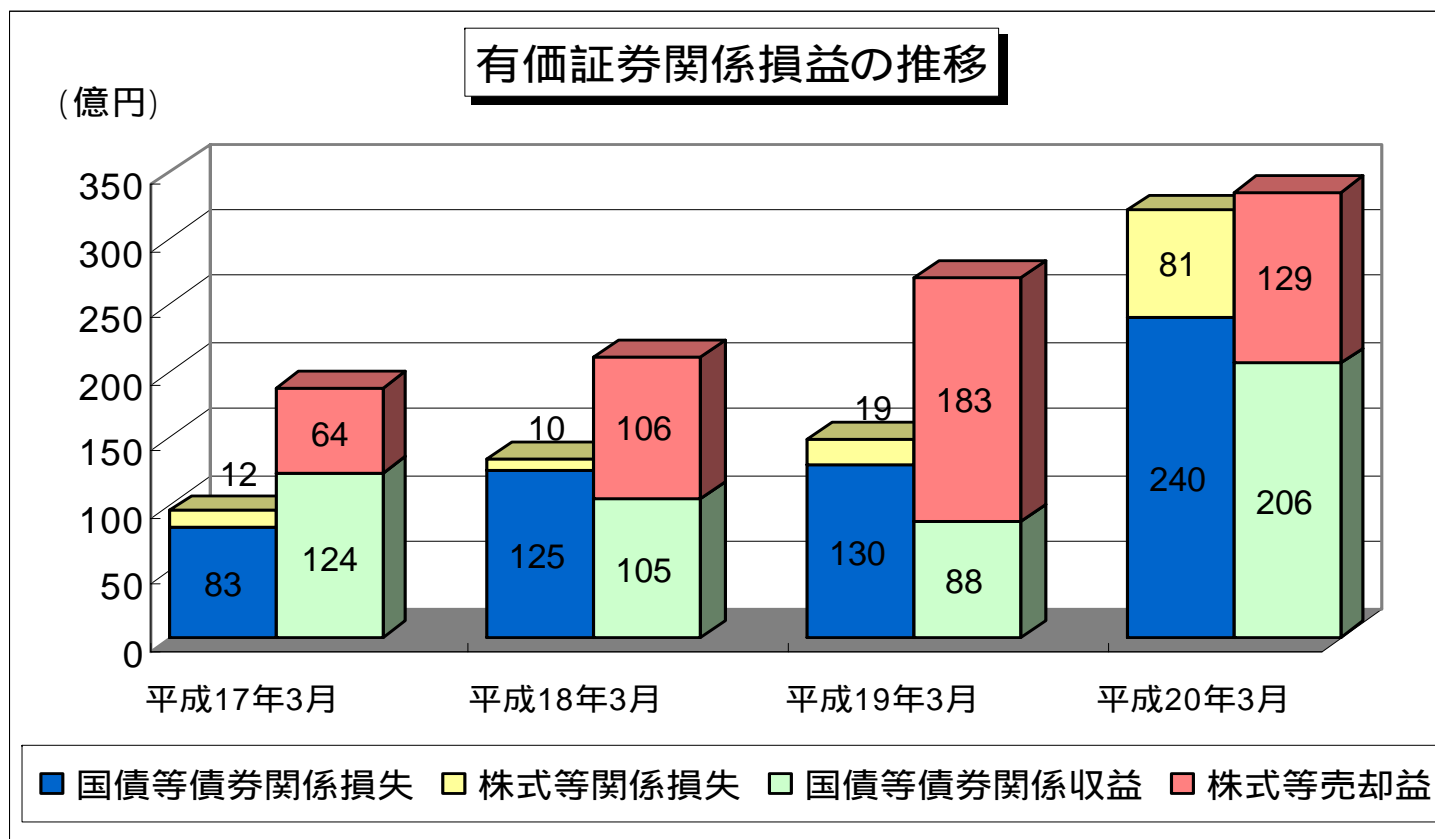
経費の状況



不良債権の状況

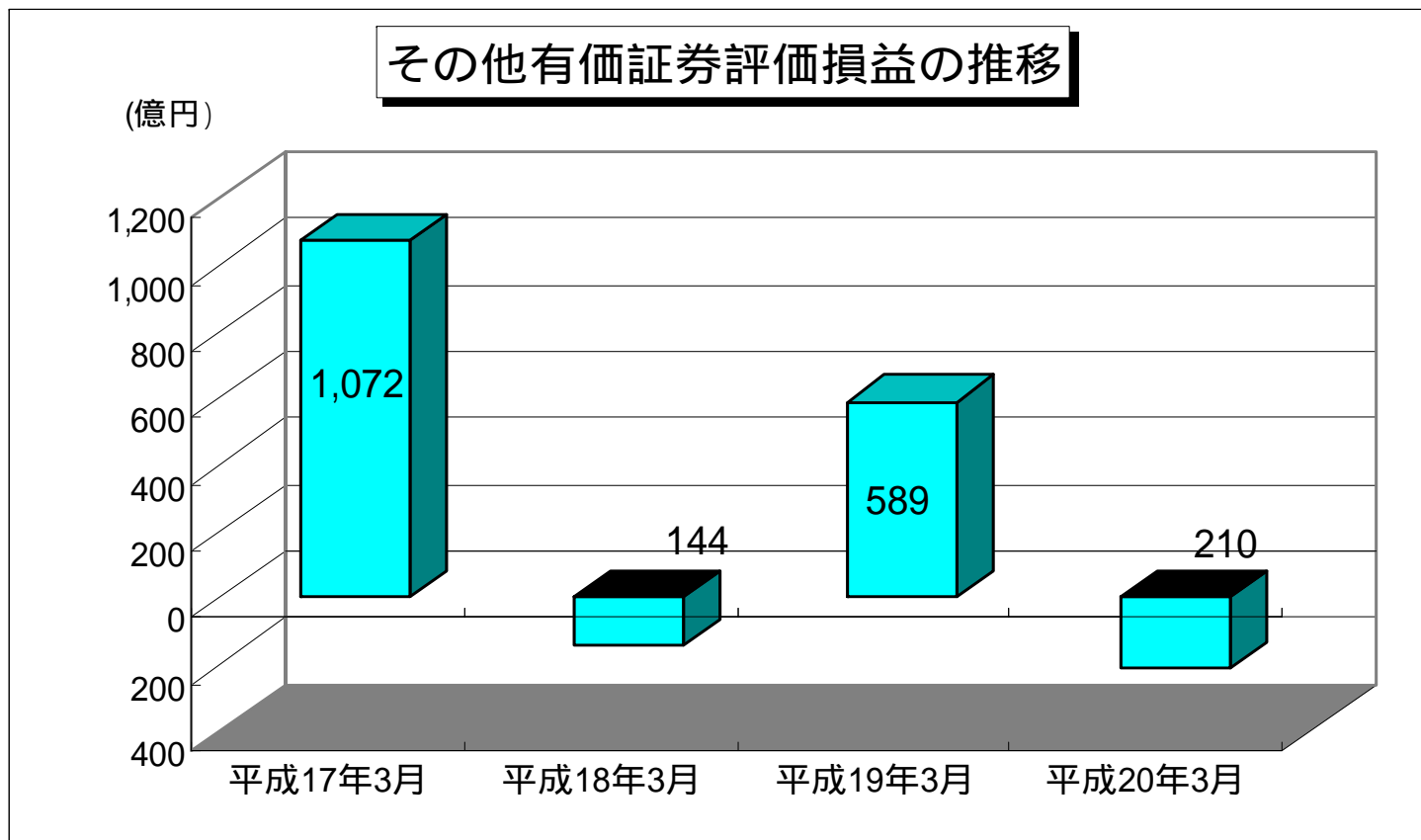


有価証券関係損益の状況

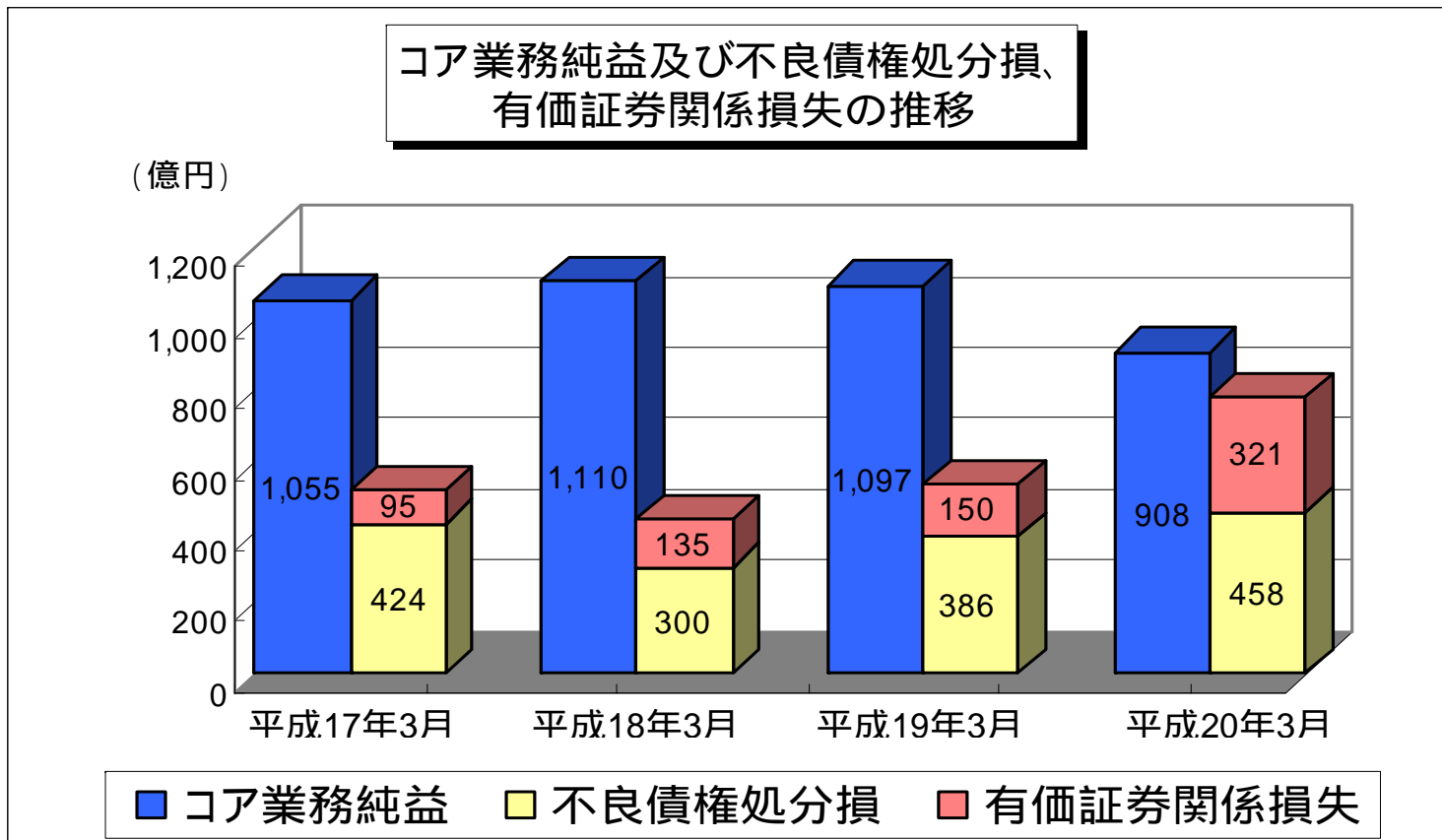


(注) 国債等債券関係損失 = 売却損 + 償還損 + 償却
 国債等債券関係収益 = 売却益 + 償還益
 株式等関係損失 = 売却損 + 償却

その他有価証券評価損益の状況



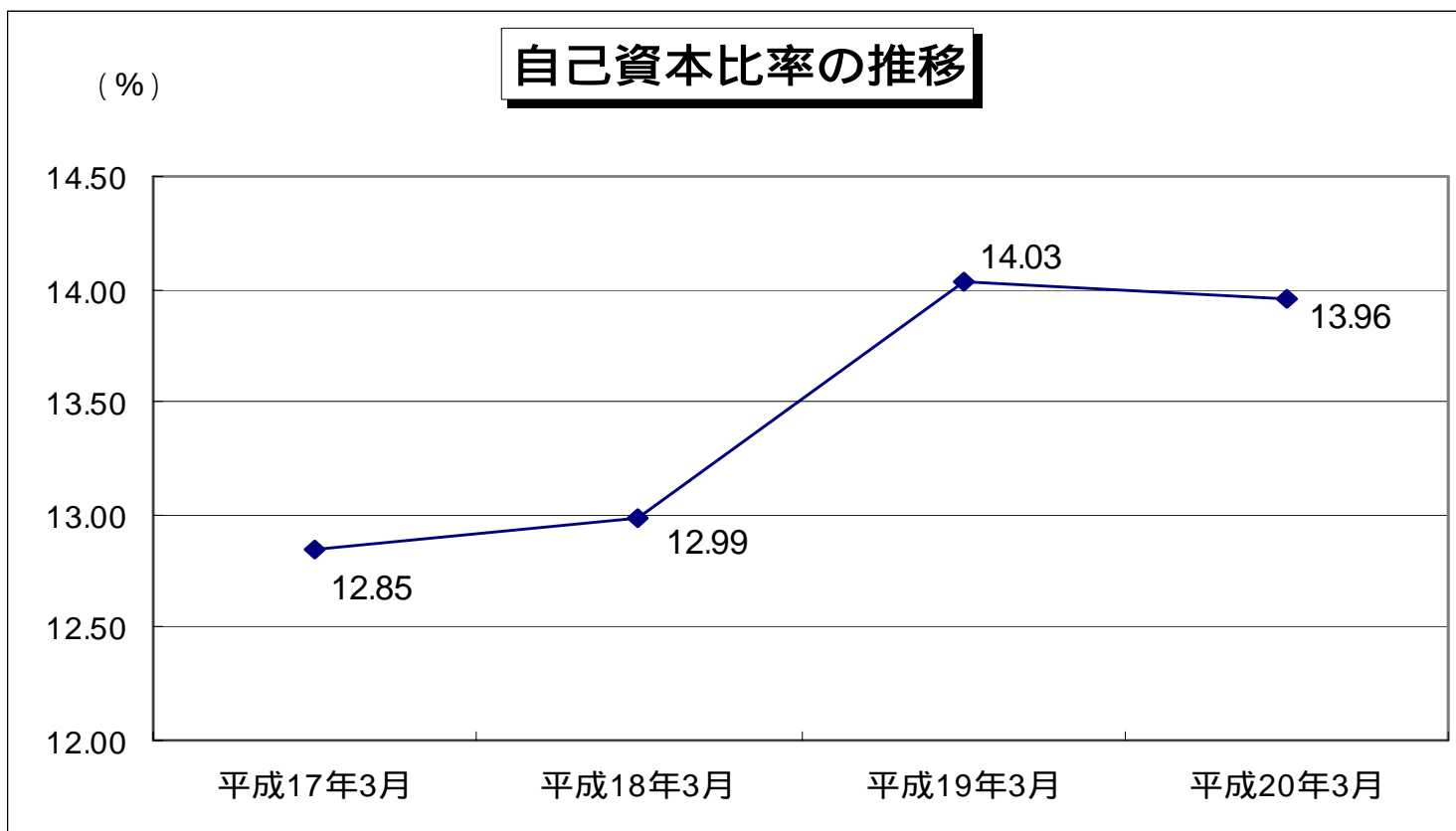
コア業務純益及び不良債権処分損、 有価証券関係損失の状況



(注) 不良債権処分損 = 一般貸倒引当金繰入額 + 貸出金償却 + 個別貸倒引当金繰入額 + 債権売却損

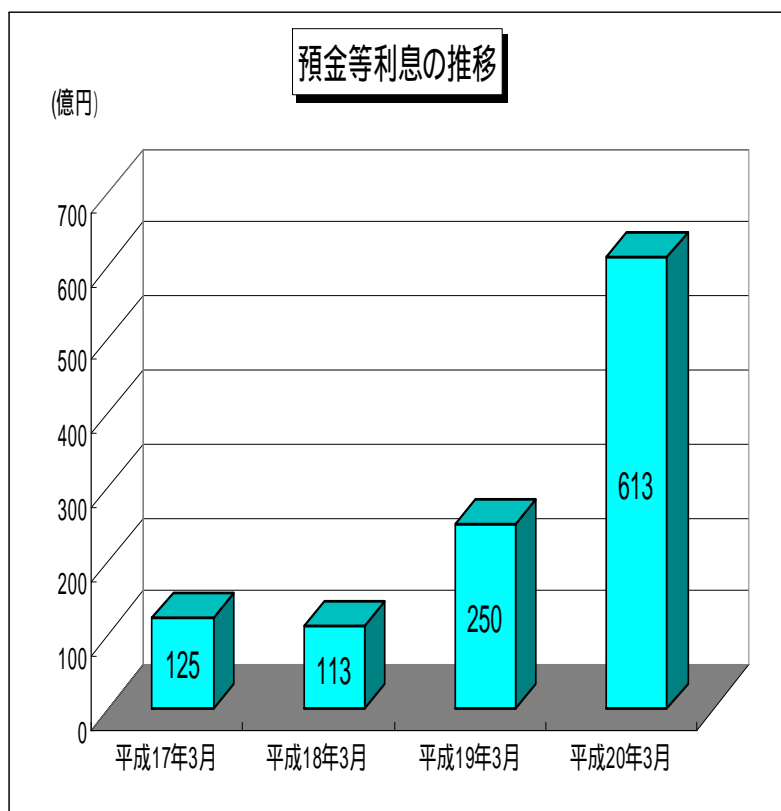
有価証券関係損失 = 国債等債券関係損失(売却損 + 償還損 + 償却) + 株式等関係損失(売却損 + 償却)

自己資本比率の状況

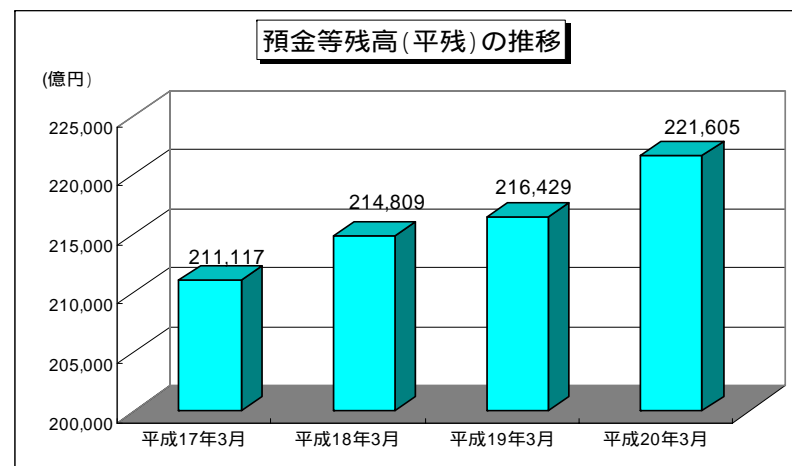
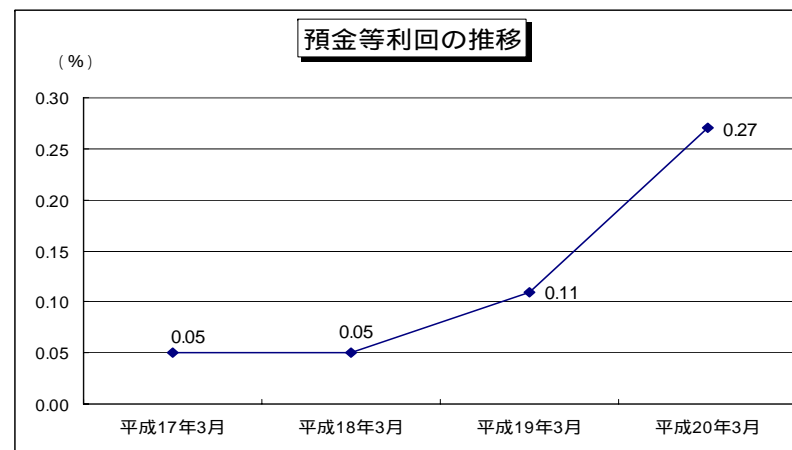


(注)平成19年3月期より、バーゼル に基づき算出。

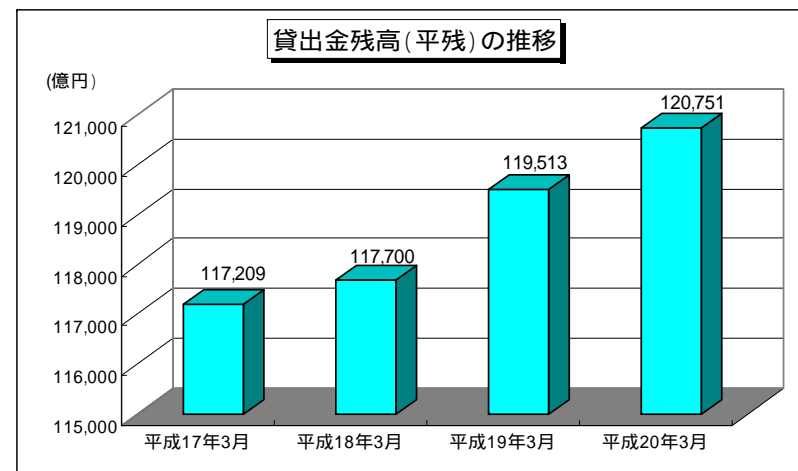
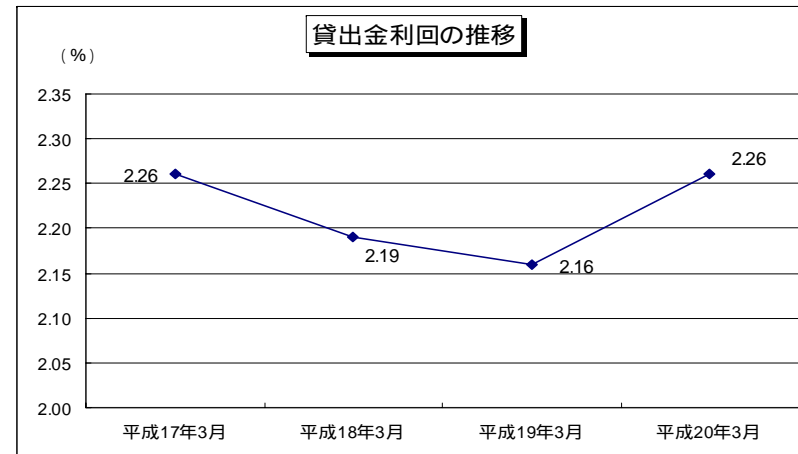
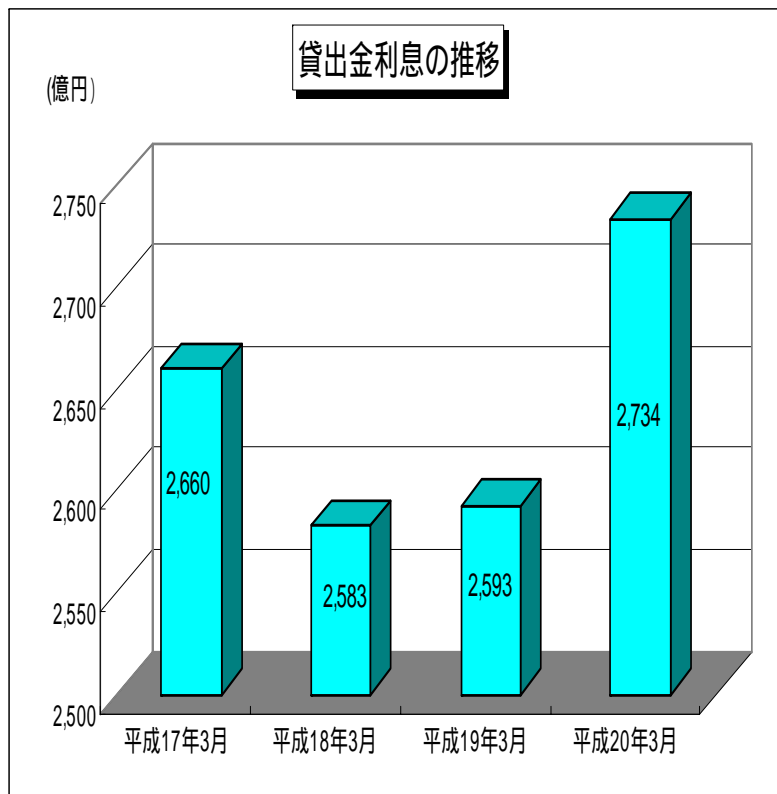
預金の状況



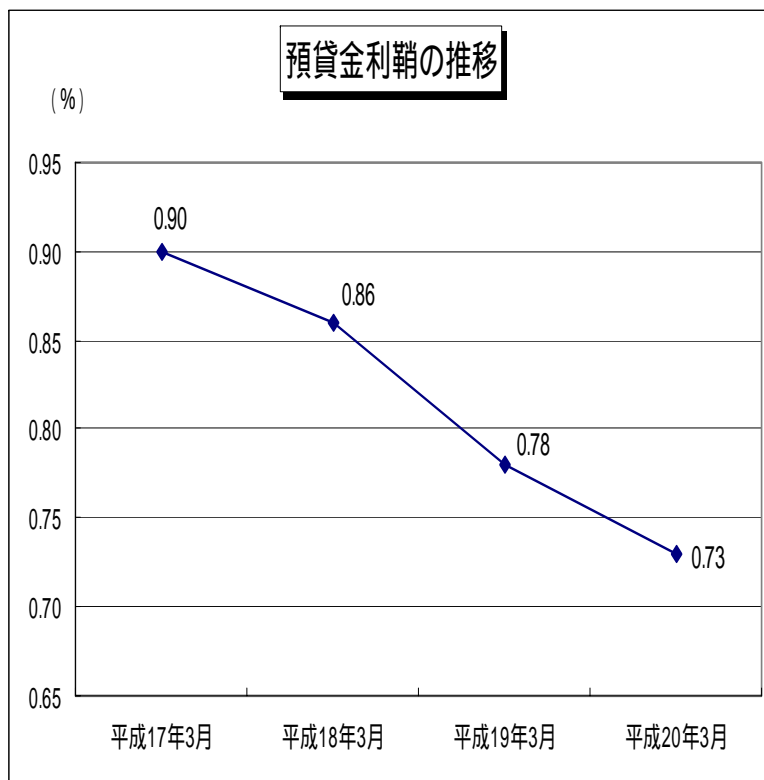
(注) 預金等 = 預金積金 + 譲渡性預金



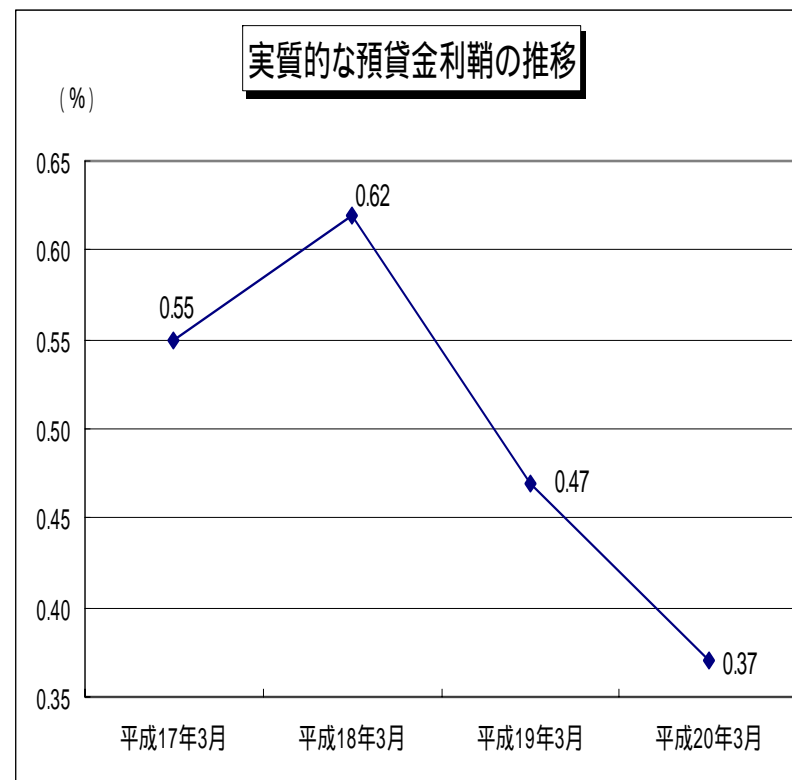
貸出金の状況



預貸金利鞘の状況



(注) 預貸金利鞘 (%) = 貸出金利回 (%) - 預金原価率 (%)
 預金原価率 (%) = 預金等利回 (%) + 経費率 (%)
 経費率 (%) = 経費 ÷ 預金等 (平残) × 100



(注) 実質的な預貸金利鞘 (%) = 預貸金利鞘 (%) - 与信費用比率 (%)
 与信費用比率 (%) = 与信費用 (不良債権処分損) ÷ 総与信 × 100



(参考)管内信用組合の平成19年度決算の概要

(単位:億円、%)

	18年3月期	19年3月期	20年3月期
預金積金(平残)	11,321	11,366	11,520
貸出金(平残)	6,124	6,081	6,083
コア業務純益	67	67	51
当期純利益	1	26	24
不良債権比率	13.76	13.44	13.37
自己資本比率	11.45	12.63	12.29



収益指標

● 業務純益

業務純益 = 「業務収益」 - 「業務費用」

業務収益 = 「資金運用収益」 + 「役務取引等収益」 + 「その他業務収益」

業務費用 = 「資金調達費用(金銭の信託運用見合費用控除後)」 + 「役務取引等費用」
+ 「その他業務費用」 + 「一般貸倒引当金繰入額」 + 「経費」

● コア業務純益

コア業務純益 = 「業務純益」 + 「一般貸倒引当金繰入額」 - 「国債等債券関係損益」